



航空機操縦士養成連絡協議会

各ワーキンググループとりまとめ概要
(平成28年度)

学費負担軽減ワーキンググループ

具体的な検討内容

■ 民間養成機関の奨学金事業への参画

- ・東海大学、桜美林大学、崇城大学、千葉科学大学、日本航空大学校、本田航空(株)、朝日航空(株)の7養成機関が、奨学金事業へ参画する方向。

■ エアラインにおける検討

- ・奨学金原資の拠出を行うものとし、管理運営等については業界全体での協力のあり方を検討。

■ 民間養成機関における検討

- ・一部の民間養成機関において、運営主体等となる公益法人の設立（大学系子会社の活用）、効率的な債務保証方法（保証機関と自己積立の併用、債務不履行者の低減）等による負担低減の可能性にあわせ、運営協力金の分担等について検討。

■ 保証機関の引受可能性の調査

- ・数社の保証会社が、学生の債務保証を引き受けられる可能性が高い旨を回答。
（奨学金制度の詳細の検討にあわせて、保証料率等について協議を実施する必要。）

■ 運営主体の管理運営費の試算

- ・奨学金事業を公益法人が実施する場合における管理運営費の試算を行ったところ、約2,500万円となった。ただし、人件費等は縮減できる可能性あり。

今後の検討課題・取組み等

■ 引き続き、WGとして検討を深めていく。

特に民間養成機関での検討は、今後の進め方に大きく影響を与えることから、なるべく早期に結論を得る必要がある。

技量向上ワーキンググループ

具体的な検討・取組み内容

■ 操縦技量等フィードバック会議

- ・ 民間養成機関を修了し航空会社に就職した操縦士の訓練等において見受けられる操縦技量上の改善点等について、航空会社から民間養成機関へフィードバックすることにより、民間養成機関における操縦訓練の質の向上及び航空会社のニーズに応じた人材養成の実現を目的とした、「操縦技量等フィードバック会議」を設置、開催。
- ・ フィードバックされた情報を踏まえ、民間養成機関において取り組まれる事項等について当会議を活用して情報共有。
- ・ フィードバックや情報共有を行うことにより民間養成機関における教育の向上、航空会社のニーズを踏まえた人材育成、様々な情報が共有されることにより個々の養成機関では顕在化していない問題への早期対応等、様々な効果に期待。

今後の検討課題・取組み等

■ 操縦技量等フィードバック会議の開催

- ・ 操縦技量等フィードバック会議を引き続き開催し、民間養成機関における教育の向上、及び航空会社のニーズを踏まえた人材育成等が図られるよう情報共有に努める。

裾野拡大ワーキンググループ

具体的な検討・取組み内容

■ 個別の取組のネットワーク化等による航空業界全体の取組の推進

- ・航空に係る共通ウェブサイト「skyworks」のイベントカレンダーの運用開始。
- ・ヘリコプターに関する職種紹介を「skyworks」に今後追加予定。

■ 空に親しむ体験を充実させる取組の強化

- ・（公財）日本学生航空連盟が埼玉スカイスポーツフェスタ2016を開催。

■ 女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者の増加に向けた取組

- ・現役の女性操縦士・女性整備士・女性製造技術者による講演会を平成29年3月20日に開催。

■ 初等中等教育における航空への関心を高める取組

- ・厚生労働省「キャリア探索プログラム」（学生への職業講話）への講師登録。（愛知労働局）
- ・高校の進路指導担当教諭を対象とした航空機産業事業所の見学会を実施。（自治体、愛知労働局、中部経済産業局の連携による開催）

■ その他

- ・2016年国際航空宇宙展におけるエアライン講座（整備編）や航空教室等の開催。
- ・「航空機産業しごとフェア」を関東（横浜）、関西（京都）において開催。
- ・（独）国立高等専門学校機構と連携し、航空宇宙先端技術分野に係る特別講義を実施。
- ・名古屋大学にて他大学を含む工学系学生を対象に航空機装備品学生セミナーを開催。
- ・子ども霞が関見学デーへの協力

今後の検討課題・取組み等

■ 機内誌等各者の有する媒体を通じた裾野拡大の取組について検討。

■ 子ども霞ヶ関見学デー、航空教室（女性限定）は計画・実行。また航空機産業人材確保に関する取組では航空宇宙先端技術分野に係る特別講義について、テーマを拡大して継続するほかインターンシップ促進のため受け入れ企業の拡充。

■ その他の取組みについても可能な限り継続して実施。